夕刊
磐城新聞
五月十一日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢 五號十二字詰一行（場所指定一行一圓）
編輯印刷兼發行人 鈴木哲 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
營業交換電話（タイライワキ） 平局私書函第十二號 電話五六〇番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八。五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は南の風晴
明日は南東の風晴
後薄曇

大社詣で（三）
――新緑の山陰――
山田生

大社は地勢上から平地の砂原の様に想像をしてゐたがどうして鶴山、亀山、八雲山といふ老松鬱蒼たる山々を背景に鎮定遊ばす、社殿は誠に神々しい限りである、所謂大社造りの基本で朱碧を用ゐず壮大にして莊厳を極めてゐる、寫眞でしみの深い拜殿の大七五三縄は三百幾十貫あるといふ程大きい、境内の兩側は十九社神社と申上げる一棟十九間の御宮ある、八百萬の神たちの神集り給ふ御宮で下様に申上げると神様の御長屋である、その御集りの時季は全國の神無月で出雲では神在月と申すさうだ大社から宍道湖の北岸を走る電車で、

松江 に向ふ途中有名な一畑薬師がある日が暮れて参拜しかねた、松江では湖畔の皆美館といふに宿つた、水郷松江の氣分は又格別だ然かし松島を見てゐる自分には大して勝れた景色とも思はれなかつた、北松江と南松江を繋ぐ松江大橋は御影石擬寶珠付の洒落た橋だ、この橋を中心に盛場夜の松江が展開される、松江は茶人松平不昧公の城下だ今日でも茶の湯氣分の漲つてゐる町だ、宿屋でも茶室を持つてゐるそして茶を出してくれる、不昧公の茶室菅田庵といふのを郊外に尋ねて見た、文字通り幽邃綿塵の場所だ、蕊葺きの誠に凝つたものだ、一木一草に凝つたもので、一石一石茶の法則にかなつてゐるのであらう、見る目を樂まして呉れる、ところが甚だお恥かしい次第だが自分は茶の趣味は皆目持ち合せはない、かつて映畫で見た事があつて何んでも茶碗をクルリ/\と廻すものだ位の知識しかない。致方がない旅の恥はかき捨てとばかり隣の人のやるのを横目で盗んで無茶苦茶にごまかしたが冷汗が少しばかり流れた、一体なんでこんな眞似をせねばならぬのか理が解らない昔の閑人が贅の限りを盡した揚句、何かの變化を求めいかにして退屈を凌がうかとして考へついたものではあるまいか、楚人冠氏が

『人間のなする尤も馬とい事は戀だ
その次は茶の湯だ
その次は念佛だ
さあこいどこからでも打つて來い』

と言つてゐたが第一と第三には多少不服もあるが、それでこそ『さあ來いどこからでも打つて來い』と身構へたんだらうと思ふが第二は無條件で共鳴が出來る樣な氣がする

その日/\

○
あそぶともゆくともしらぬ燕かな　去來

5月12日
――
△日蓮上人伊豆に配流（弘長元）△英詩人畫家ロセッテイ生（一、八二八）△廣東文治派首領胡漢民氏逝く（昭和一一）

賀牧田家婚儀
珠雲　小野蕎平

送將淑女配高人
孔雀屏前玉燭新
內外相依磐石固
梅花修竹萬年親

雑詠四首
竹内竹風

○双六に負けしと云つて泣ける子に妻は好める菓子を與へり
○入營のせまれるまゝに訪れし人の面は緊張しされり
○俳句會終へて戻れば家近く火の番一人通りすぎけり
○何程のことやあらんと思へるも支那の事變は永びきにけり

ラヂオ（三）
高木生

そしてその月からは聽取料五十錢と電氣料八十錢ときあ金のことは言ふまい。とにかくスマートなラヂオ一台我が家の本箱の上に飾つたことは事實だ。

さてそれから暫く私は暇の許す限りこのラヂオのダイアルをマルコニーの如く戯微を以つて大にいぢり廻した。

所でさして珍らしいとも思はなかつたこの文明の利器も一度自分のものとして所して見ると、その時々に流れ出る音律や、言葉が更にもの珍らしくひびくのが不思議であつた

女房の耳にも左程ちがつたものに響かないと見ね大して悔きなかつた。とにかくゆつくり白晝夢めから醒めた時茶柱の立つた熱いお茶をすすり乍ら聞くこの賑やかなラヂオの音は全く清新な感覺であつた。晩餐の後に聽くこのメロディには文化住宅ならずとも淡い幸福を感じた。こうして二三年は經つたのだ。

所がこの珍らしい音も完全に家族の一人の物として聽けるやうになると早や耳を傾けるべきものが何もなくなつてゐた。

毎日々々同じような講演やくだらぬ流行歌をよくもこうつづけられたのだと思う位感興のないものばかりである。

この單調な音階には倦怠をさい感じた。

講談
隠密小天狗（おんみつこてんぐ）
(18)
中川雨之氏作
近藤紫氏畫

細暖簾の豪傑

『わい/\の大事が、若し中途で挫折ものやうなことがあつたら、それこそ必ず丸橋が原因になりはしないかと、それがどうも心懸りで――』

三郎兵衛の面にも颯と暗い色が走つたが、やがて彼は決然として、

『あなたにも似合はない。それはちと、取越苦勞でせう。よしんば丸橋にそんな危険な態度が見ねたとしても、其處は――?』

と、四邊を廻して。

『やつてしまへば宜いでや』

三郎兵衛は手を伸ばして、大刀を引き寄せ、柄頭を、とんと叩いた。

正雪の、美くしい眉もピリリと動いた。

『思慮は足りないが、あの勇氣と膽つ玉は。大したもの、その點では拙者も一歩を讓つて居るが――』

『まつたく、惜い人物ですけれど、大事の前には、彼の膽ッ玉くらゐ、小事ではありませぬか』

『それもさうだ』

しかし、正雪は、何處までも忠彌を憎む氣になれなかつた、三郎兵衛も、正雪の手前、口では強く言ふもののゝ、肚では決して憎んではゐないのだ。同郷の友人として同志の一人として。最も親しみのある二人であつたのだ。

しかし、その忠彌は――?。

なるほど、正雪の言つた通り、伊豆守のことなんかふつつり忘れてしまつたもののゝやうに、あれ以來、おくびにも出さなかつた。

しかし、相變らず、よく飲んだ。

毎日道場の始まる前に、朝酒五合。ほろ醉ひきげんで稽古をつけて、それが了ると、晩酌は、めつたに家でやらない。『門弟の歸つて行くあとから、自分も慌てゝ飛出してそれから飲み廻る。

といつても、氣の利いた料理屋なんぞへは滅多にいつたことが無い、殆ど縄暖簾が專門である。彼の天下は縄暖簾であつた。

酒桝に腰をかけて、仲間來い、無頼漢來いと、誰彼なしに掴まへて、べロりと平げる二升酒。

『いよう本郷の槍の先生』

『丸橋の忠さん!』

と云つた調子で、飲仲間の人氣が宜い。

醉歩ひよろ/\、貧乏徳利を肩に引つづいてが眞夜中の町を、本郷の家に歸る彼の姿を見かけることは珍らしくなかつた。

忠彌は、今日亦、例の一杯機嫌で本郷お弓町の家へ戻つて來た。

『あ、お歸り遊ばせ』

出迎へたのは女房のお蓮この人は。飲んだくれの忠彌の女房には勿體ないと云はれるほどであつた

もう三十五六だらう。別に美人といふでは無いが、武家の妻らしい、品のある小柄の婦人、但し世帶の苦勞や、良人、姑の世話、子供の發育を一身に引受けて居るので、隨分世帶窶れが見られて居る。

忠彌の家族は、母親の澤、子刀自に女房のお蓮、伜龜之助當年七歲の都合四人であつた。

『旦那様、あのお客様がお待兼ねでございます』

お蓮は、良人の渡す大小を受取りながら、奥の方を見て、につこり笑つた。

『なんだ、今日は珍らしく早歸りをして、是から湯に入つて、草臥休めに、悠くり一ト眠りと思つたに、來客とは情ない。一體誰が來て居るのだ』

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
十二封度レール、トロ車輪付附屬鐵工工具品、新品着荷致しました

東京製中古品旋盤
九呎旋盤　ヒユガルポンプ
八呎旋盤　口經六吋
六呎旋盤　同　四吋
六呎木工旋盤　同　二吋
同　一吋半
十六吋セーパー
パーチカルポンプ
十五吋半九尺
十一吋半九尺
十一吋半六尺
中古新品發動機
モーター中古品
五馬力牛ヤンマー　廿五馬力
三馬力牛ヤンマー　十五馬力
五馬力
一馬力
右の通り新品中古共入荷致しました。
精々御用を乞ふ。

二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵機械
（SK）井尻三七郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

旅舍 大幸館
電話下谷（83）六七七番
東京上野驛前
下谷郵便局横通角
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の為めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

病室増築、手術室完備
産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町 『電話三六九番』

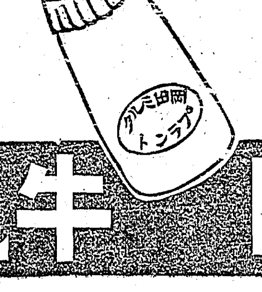
難波醫院
内科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波睦

夜間診療
胃腸性病
專門
内科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）

賣特服生學女男
（高）高嶋屋の洋服
廣背新柄 レンコート
品製既ニ並文注
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2）西村藥局（電3）

平市二丁目
あまこ自動車商會
電話六四〇番



断然一賣行よし
信用と品質と共に備つて
平市鎌田町
電話五一
低温殺菌
岡田牛乳

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社 關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前（電話大津一四七番）
福島縣四倉驛前（電話平潟五四番）
福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二番四）

お醤油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
醸造元 山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

獨特の珈琲とWINE
紳士の喫茶店
グリルバツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通りTEL七〇二
◇……◇……◇……◇
女店員募集
年齡十七才位より廿五才位まで
月給四拾圓以上支給漸次昇給
待遇衣裳貸與食、
何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です眞面目に働きたい方健實な生活を望まれる方は至急御出下さい懇切に御指導致します

新綠薫風を衝いて 滿蒙開拓青少年義勇軍出發

市から最初の一名參加

滿洲の資源開發により產業新日本建設の重大使命を帶べる縣下の第二回青少年義勇軍一行百七十三名に對する壯行會は、既報の通り昨十日午後一時から縣社子鍬倉社前に於ける宮城、皇太神宮の遙拜式、國歌合唱に始まり、第一小學校講堂に於て君島知事代理和田學務部長の訓辭、青沼市長のお行の辭、來賓（八巻警察署長、藤田聯合軍人分會長、篠山第一校長、馬目市議代表、山崎市聯合青年團長）の祝辭あつて茶話會に移り、滿堂を埋めた附添ひ

大使命に 躍る若人

父兄、出身地學校長等の間に今後の携まぬ心構へなどを語り合ひ非常な盛會裡に午後三時閉會、住吉屋本支店の兩宿舍に分れ渡邊縣社會事業主事指導の下に一糸亂れぬ訓練の第一日に入り夫々出發前夜に於ける興奮の第一夜を送り今十一日は午前十一時平市役所前集合最後の袂別をなし潑剌たる元氣を見せ乍ら午後零時半の上り列車にて茨城縣訓練所さして出發した。因に平市からも一昨年第一小學校を出た柳町仲條清次君が市最初の參加として勇躍出發した

土の尖兵壯行雜觀

今日出發した滿蒙開拓青少年義勇軍の中には前回の最年少十七歳から更に十五歳と云ふのがあり、年齢に似合はぬ壯圖を雄とするのであるが、先の例によると之等は家を離れて何日かを經過し、最初の興奮狀態から遠ざかるに從つて漸次少年らしい懷鄕思慕の念を起し、訓練所の深夜を密に枕を濡らすのも相當にあるさうで之の可憐なノスタルヂア振りは漫ろに少くも子を持つ親の聞くだに已がしらが熱くなるものがある。

◇開拓義勇軍の名からして『土の尖兵』と云はるる位、向ふへ行くと直に鋤鍬を揮ひ一望無際の沃野に立つて處女地の開拓征服に從事する如く、恰も土の掘りが仕事の總てであるやうに概念づけられてゐるが、聞り國防の第一線に耕耘の汗水を垂らすより其の眞使命は寧ろ宏遠三千年來の光輝ある日本精神と、燦然たる日本文化とを彼地に植ゑつけるに在る。諸君はその重大にして輝かし使命を果さねばならぬ苗木である、須く今後の總有る雪虐風饕に堪へてよく健全なる發育を遂げねばならない——旨を强調した昨壯行會に於ける篠山第一校長の覘ひ處はまさに當日の送辭祝辭中に精彩を放つて隱れた（XY生）

なつた

銃後相談に 縣で補助金

平市へ百六十圓

今回本縣に厚生省より軍人援護助成費として三萬二千六百圓の交付指令があつた

これは縣を始め市町村に設置の軍人援護に關する相談所に對し補助するもの、これが事業としては家業の經營維持その他身上家事萬般に關する相談指導、恩給、一時賜金等の恩賜幹旋並に賜金の保護に關する相談、恩賜金を繞る紛爭の調停、子弟敎育の斡旋、職業紹介機關との連絡その他銃後施設萬般の相談に應ずるもので縣には一千二百圓、市は百六十圓、町村に八十圓の平均額を交付する、右相談施設の運營によつて應召遺家族はその堵に安んじることが出來るわけである

逐年增加する 力强いこの統計

入山健康保持者表彰

先づ健康

從業員の体位向上を目指してゐる地方各炭礦では毎年健康保持者の表彰を行つてゐる、入山坑務所でも去る昭和三年度以來これを實施としてゐるが此程既往十ケ年の表彰統計を纏めた、これによると

昭和三年三二七、四年四〇五　五年三〇九　六年三五七　七年三◎九　八年三二五　九年三九八　十年四四三　十一年五一一　十二年五六一

上で漸次增加の一途を辿り炭礦側でもこの傾向を祝福して居る、今年度の表彰式は此程擧行したが彼表彰者は

（十一年間）伊藤源吾　天野重次　松本源與　安田辰次郎　渡邊光春　小園井忠次郎　野木泰一　十年九　九年四　八年一一　七年八　六年八　五年一四　四年二八　三年四〇　二年一二　一年三一一

眞根井氏經營 木工場反對擴大

新顔十名も署に陳情

市内新川町一眞根井藤馬氏出願の木工場反對に就ては保安關係及び保健衞生上支障あるを理由とし發に馬目武之助氏外十四名から八巻平署長に陳情したが其後更に左記十一名の反對同志が出來連署の上今十一日片寄小彌太氏外四名の代表者が出署同樣陳情のをなし、問題は一段成り行きを注視さるるに至つた

丹野藤右衞門　馬目政治　加藤末吉　折笠福太郎　鵜沼五郎　遠藤淺香　高野仁平　鈴木理髮店　須藤力彌　絲川留吉　鈴木榮吉

描かれる銃後風景

田植シーズンに際し 奉仕班の活動要望

銃後の勞力不足によつて春蠶の掃立數量等も若干減少を豫想されて居る折柄來るべき田植季にもこの影響が現れることであらう、夏井村ではこの實情に鑑み昨報の如く田植前後に一戸當二人宛出て村內の遺家族の勞力不足を補ふことゝなつた等この外青年團其他の團体が出動してまたしても美しい銃後援助の風景がそこかしこに描き出されるものと見られてゐるが縣でもこの時期に際し市町村の勞力奉仕班の活躍を要望するため近く經濟部長の名を以て夫々通牒を發することゝ

陣中を聽く

……………(145)……………

時折出沒はするが 彼等既に戰意を欠く

元入山從業員　吉田格治君（通信）

私は○○○隊や小行李を襲ひますが强力なる武器はなく竹槍紅い房の付いた槍や龍刀の如きものを持つて居る七民（匪賊に等しきもの）其れに正規兵がいくらか交つて百二百位のものです、だから報告を受けて飛出して行くと跡形なく逃げてしまひます其れで敵にはさほど恐れませんが不潔な支那ですからそろ〳〵暑くなつて來るので蠅や蚊が無數に出て來ます一時でも衞生に注意しないと病氣に罹ります其の外『サソリ』と云ふ毒虫、南京虫等の巣の樣なもので夜はろく〳〵安眠出來ませんこれが一番恐ろしくあります、病氣と戰ひ毒虫或は南京虫と戰ふのも國家のためと思つて奮戰力鬪を續けて居ります。

といふ第一線に警備に當つて居りますが正面の敵は殆ど戰意を失へるものの如くにて大なる危險もありません、時々中途山間より出て來り我が小部

『サソリ』と云ふ虫に食はれると三十分以内に死すとの事ですから特に恐れて居ます。四月十三日私の寢床へも夜半勇敢にも單身襲擊して來ましたやつとの事で捕獲しまして罐に入れて見本にしてあります、長さ二寸位頭が大にして尾にするどい毒針を有し海老の如き怪物にして一切獰猛なつらをして居ります。捕へ樣とするとぴんぴんと飛び步きます。

弓道昇段者

武德會から允許

過般平署弓場で行はれた弓道階級試驗の結果左記諸氏は大日本武德會から夫々昇段を允許された、近く平署から傳達される

（一級）野口勝延

（初段）菜花清　馬上猛太郎　鈴木甚八　小野直千賀　小松梅與　百足友孝　村上鑑三　大内龜吉　小野照吉　八木沼貞吉　林藤吉

（二段）田口辰雄　吉田新治郎　大河原重德　赤坂治利　七海寅十　鈴木重令　坂本欽一郎　渡邊卯之治　有吉光夫　丹野一男

（三段）伊藤清水　箱崎藤吉　齋藤日吉　本間留五郎　磯井浩　釜田作治　八巻胞治郎　石川忠雄　鈴木要

入山＝日立溫交會

十五日庭球部對戰

入山庭球部では十五日の公休をトし午前十一時から自治會館下のコートに日立溫交會軍を迎へ今年初の對戰を試みる、入山軍のメンバーは左の如し

（三枝 比佐）（長谷川 岩倉）（永山 佐川）（佐々木 古内）（益子 松井）

日立軍の陣容は昨年と若干變更されて居る、兩軍の對戰は既に五回重ねられ當日の熱戰を豫想されてゐる

四倉築港二期工事 來月早々着工

第一期四十四萬圓の工事を終つた四倉築港工事は更に工費十四萬圓、二ケ年繼續の第二期工事を來月早々着工すべく來る二十六、七日鍬入れ式を擧行する

第二期工事は一期工事の殘餘船溜六千三百坪を干潮面下三米迄浚渫するもので既設六千坪其他沖合寄りの入港面を合し一萬五千三百坪の一大船溜場が出來上るもの

竣功の上は百トン級の漁船を横付けすることが出來る外二、三十トン級の小漁船百艘以上を收容する設備が成るといふ

前田醫院業務擴張

植田町前田醫院では前田清美院長の外發に副院長幸恒昆氏を迎へ產婦人科を新設したが今回更に副院長兒玉秀純氏を招聘耳鼻咽喉科を設け各專門科の陣容を整へ同方面の診療界に一大飛躍を試みる事となつた

前線散華一靈を弔ふ

けふ豊間で村葬盛儀

昨年十二月一日丁陰城の戰鬪に於て名譽の戰死を遂げた豊間村出身步兵上等兵大峰清太郎君及び同月三十一日蘇州野戰病院に於て病歿せる同輜重兵上等兵遠藤清一君の村葬は今十一日午後一時同村小學校庭に於て執行會葬者多數盛儀であつた

北支にも春

市內田町出身　蓬田茂君

御送付下され慰問品本日到着致しました。早速友達と丸くなつて『之は內地のものだ』と話は鄕土に花を咲かせつゝ佰藏いたしました。北支那の陣地にも昨今は九十度以上の溫度を示して山も野も青々と綠の波を打ち總てが麗かな春に包まれてゐます、支那農民達は今苗代作りに餘念なく働いてゐます（略）我々は長期抗戰に備へ一層の緊張を示して居ります。

体位向上を主眼に 平驛も夏の準備

運賃割引、臨時列車

キャンデー、撒水車、金魚賣りの聲……街はもうスッカリ『夏』の表情、そろ〳〵水が戀しいシーズンに入つたが平驛では早くも夏の準備にかゝつてゐる、今年は國策の線に沿うて『体位向上』といふのが旅客輸送の主眼點だ

例年通り平—四倉間の運賃割引を實施する外久の濱の波立藥師附近に臨時停車して浴客へのサーヴィスとする方針 波立藥師への武運長久祈願等で早くもこの夏を賑ひを豫想されてゐる

自治制發布記念式

平市では來月一日市會議事堂に自治制五十周年の記念式典を擧行、物故町村長、助役、收入役（舊平町十九名舊平窪村十名）の慰靈祭を執行し終つて左記該當者を表彰記念品を贈る

三期以上勤續市會議員、十五年以上勤續吏員、十五年以上勤續敎員、十二年以上勤續區長、設置以來の方面委員、十五年以上勤續消防幹部

新綠の飯坂から

平のつゝじも丁度見頃と思ひます。このごろそゞろに鄕愁をおぼえてなりません。歌會でも開きたいものです一寸小閑を得て湯の街に河鹿の聲を聞いております

若鮎の鹽味よろしこの夕べ 箸つきかはし友と飯食す　英尾

大塚庶務課長榮轉

平稅務署庶務課長大塚小一郎氏は昨十日付石巻同課長に榮轉、來る十七日赴任する、氏は昨年一月二本松から着任精務恪勤の事務家である

後任は山形縣酒田同課長

渡邊末五郎氏（相馬出身）と決定した

。。。。。土地買收協議　內鄕村宮島衆吉氏所有にかゝる市內才槌小路地內の土地買收に關し平市土木委員が十二日出張

。。。。。伊藤技師來郡　內務省土木局伊藤技師は十二日來郡郡內左記河川を調査　蛭田、鮫川、釜戸、滑津、新川、宮川、好間、夏井

。。。。。保健宣傳打合　十七日からの國民精神總動員健康週間に際し平署では十三日午後一時から打合會を開き實施事項協議

。。。。。第一線から寄附　市內南町出身中村甚平君は第一線から金五圓を平市軍事後援會へ、青木區長から十日寄附した

稅務功勞者に感狀

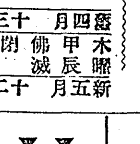
石城稅務振興協會總會は十三日午前十時から平署會議室に開き豫決算等を附議後左記功勞者を表彰

上下小川書記草野孝七　江名收入役吉田茂左衞門　同書記丹野由雄　元植田同赤津龍松　飯野收入役永山菊治　小名濱書記長瀬國三郎　同收入役樋口速　同書記佐藤軍次　平窪收入役西野源次郎　同書記渡邊美冬　四倉同木田雅風　勿來收入役赤津傳五兵衞　同書記櫛田昌男　湯本同小島榮　內鄕收入役齊藤彌一　同書記野木安吉　上遠野收入役鈴木爲之助

鼠賊。青森縣平井町山田武三（二四）は二月一日夜昭和人絹合宿內眞壁正巳所有の紺セル洋服等（百圓）を竊取最近市內飲食店の出前持ちをしてゐるところを平署へ

お披露目

久本から『いく子』が出た。芳紀まさに肉＝では無い二九十八歳、今迄軍都青葉城下で鳴らして來た尤物とある



舊四月十三日　木曜　甲辰　佛滅　閉　奎宿　新五月十二日

▲一白　他人の失敗が己に振り掛る事あり相談事注意▲二黑　家內に風波なければ事業は自ら進展すべし▲三碧　小成に安んずべき日　文書につきては喜あり▲四綠　自信强く勞なしとはされば物事達成すべき日▲五黃　和順なれば人の親を得剛情なれば運路みだる▲六白　投機業を除きての外は諸事に勵んで功あり▲七赤　常志さへ堅ければ不安も然と除かるべし▲九紫　一擧にしてきよ財を得んと妄進せば大敗あり

十二日（小名濱測候所發表）滿潮　前二、三五　後四、一五　干潮　前九、五〇　後九、五〇〇

廣告

▼强力流經劑▲　▼淋毒。病毒優秀藥▲　▼御來談アル▲
山野邊東次郎藥局　平市五丁目角

◎通勤女店員募集
一、高等小學卒業程度
一、市內居住の方
一、年齡十八歳……二十二歳迄の方
一、確實なる保證人を要す
御希望の方は履歷書持參ありたし、詳細面談
平マーケット　平市田町（電話七〇番）

假營業所御知らせ
今般店舖改築の爲當分の間世界館跡（元明雲堂）にて營業仕り候間從前通り御贔負相成度御願申上候
生そば　酒喜家　驛前　電話一七一番

耳鼻咽喉科專門　レントゲン科
高柳醫院　醫學博士　高柳博明　平驛前（電三六三）
看護婦募集

診療開始（十日ヨリ）
重田眼科
眼科一般　眼鏡檢定
平驛前通り　元貯蓄銀行跡
醫師　重田景治
平市田町一番地

◎◎◎◎お待兼の
文部省推薦映畫
全發聲日本版
オーケストラの少女
愈よ明日から
後援　平館